

第3章 重要文化的景観の保全・整備にあたっての現状と課題

「金沢の文化的景観 城下町の伝統と文化」は、藩政期に由来する都市構造や伝統文化などを色濃く継承していることが特徴である一方、金沢市は歴史都市であると同時に、石川県の県都であり都市的な開発需要を必要とする都市でもある。このような開発は、都市機能を強化するとともに、金沢の文化的景観に大きく影響を与える要因である。歴史的建築物を温存する金沢は、人々が日常的に生活する場であると同時に、多様な伝統や文化を継承し育む場として重要である。従って、これらが相互に有機的な関係を保ちつつバランスよく共存することで、その特徴を活かすことができ、そうした運営が文化的景観の本質的価値を示すことになる。

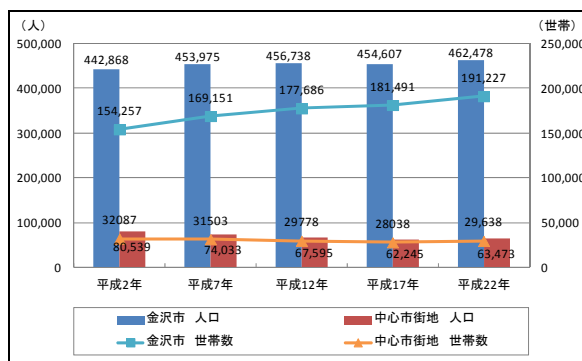
以下では、重要文化的景観選定区域や、選定区域内において特に都市的な開発需要が大きく、金沢の文化的景観への影響が大きい尾張町界隈における現状や主要な課題を整理する。

3-1 人口減少や少子高齢化

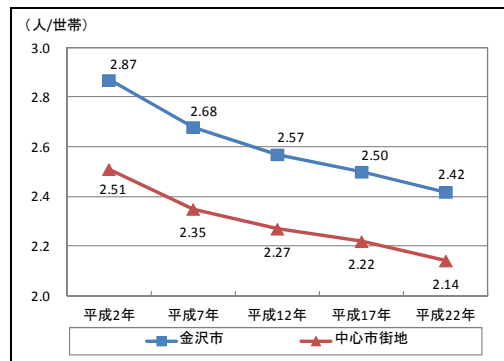
(1) 人口・世帯数

金沢市全体では、世帯数は増加傾向となっているが、人口は平成17年に減少し、平成22年は増加に転じている。一方、旧城下町区域（中心市街地）では、人口・世帯数ともに平成17年まで減少しているが、平成22年は増加に転じている。

平成22年における旧城下町区域（中心市街地）の世帯人員は2.1人／世帯となっており、金沢市全体の世帯人員（2.4人／世帯）と比較すると小規模な世帯が多い。



人口・世帯数の推移

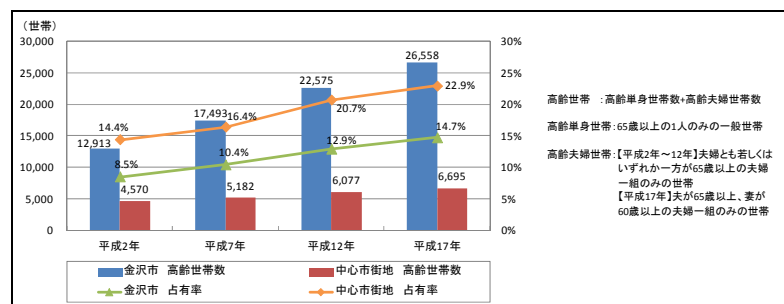


世帯人員の推移

出典：国勢調査（平成22年度は速報値）

(2) 高齢世帯数

高齢世帯数は、金沢市全体及び旧城下町区域（中心市街地）ともに増加傾向にあり、それぞれの全体の世帯数に占める割合も増加傾向にある。

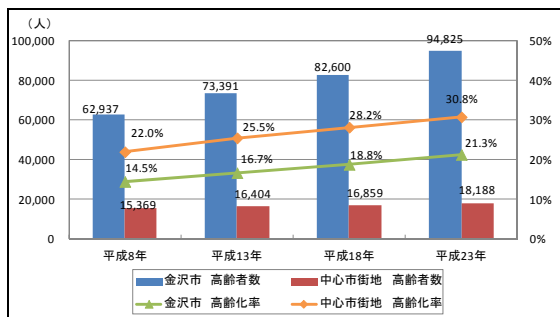


高齢世帯数の推移

出典：国勢調査

（3）高齢化率

高齢化率は、金沢市全体で 21.3%と高齢社会（高齢化率 14～21%）を迎えているのに対し、旧城下町区域では 30.8%と超高齢社会（高齢化率 21%以上）の状態となっている。



高年齢化率の推移

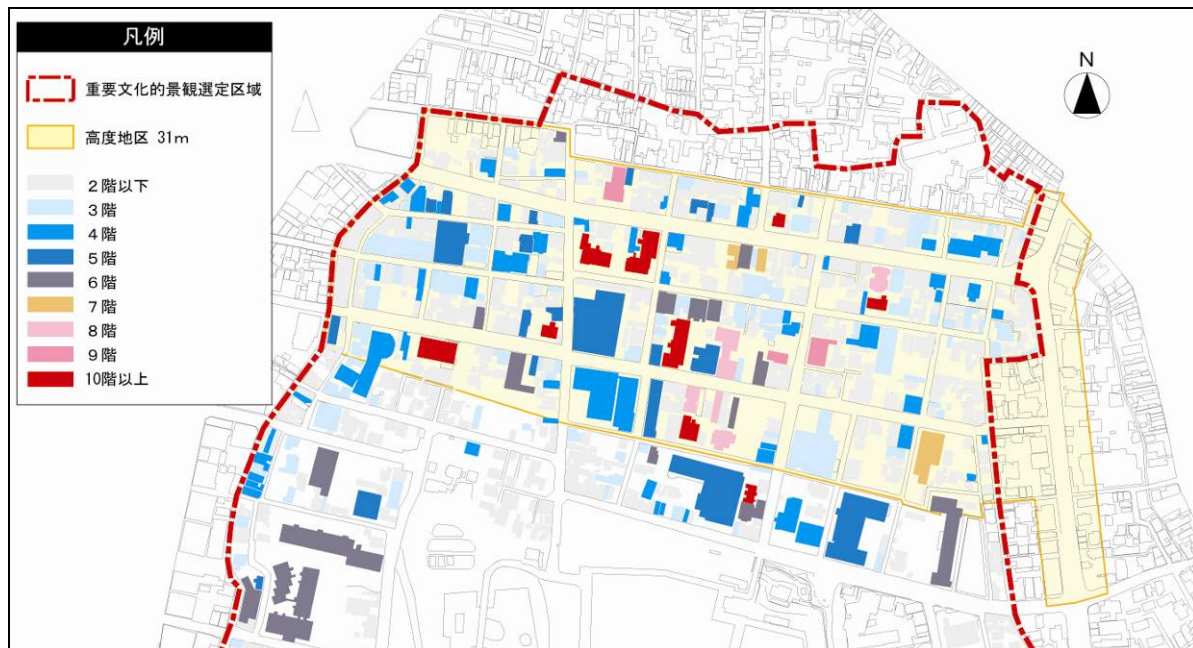
出典：住民基本台帳（各年4月1日現在）

【課題】

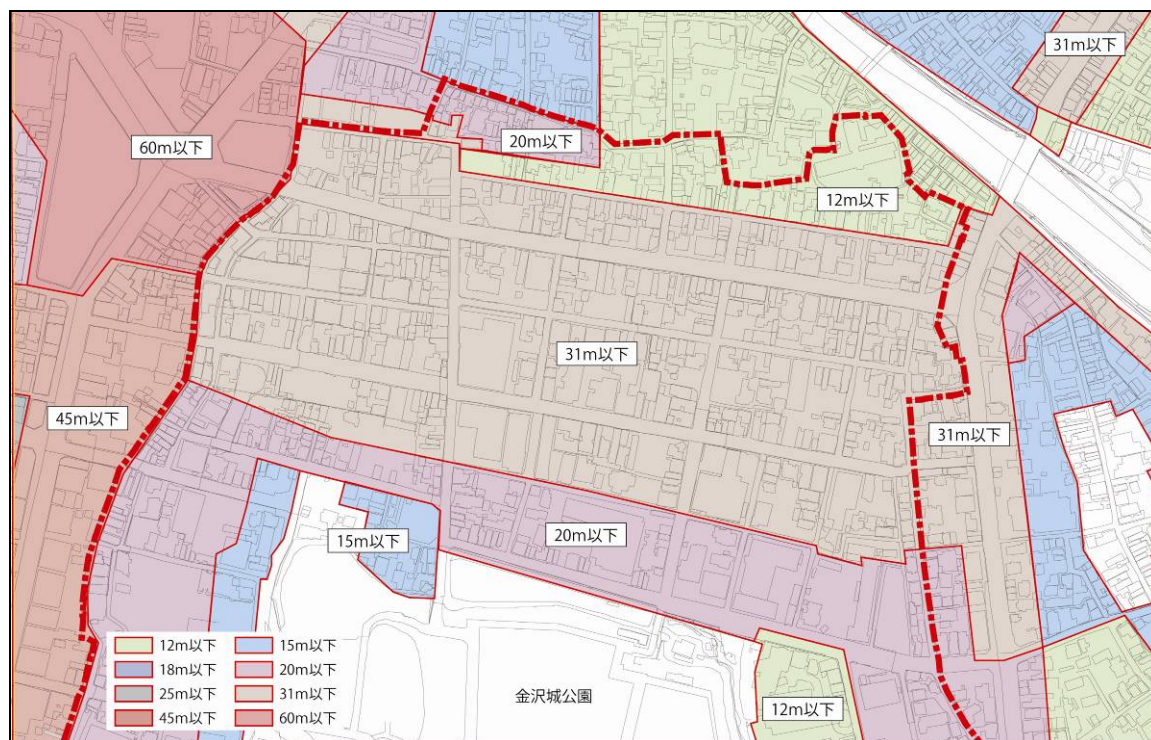
- ・人口減少や少子高齢化の進行により旧城下町区域（中心市街地）が空洞化し、地域の活力低下や金沢特有の地域コミュニティの弱体化が生じている。

3-2 建築物の高さの混在

尾張町界限は、旧新町や大手町を除き、高度地区が 31mに定められているものの、高度地区導入前に建てられた 15 階建や 12 階建の建築物も数軒あり、古い町家等が残る一方で、高層な建築物が林立し、まちなみが不揃いになっている。



尾張町界限の建築物高さ現況（2008年時点）



尾張町境界の高度地区指定状況

建築物の高さは、尾張町境界の見通し景観に与える影響も大きい。

城下町として重要な地形である卯辰山・小立野台地・寺町台地のうち、尾張町境界の東西の通りから東側を見た場合、通りのアイストップに卯辰山の緑が見える見通し景観は、城下町と地形の関係を示す重要な景観である。

下新町通りでは概ね卯辰山の稜線が確保されているものの、その他の尾張町通り、旧今町通り、旧殿町通り、大手堀通りでは、高層建築物により卯辰山の稜線が遮られ、城下町の特徴的な景観が阻害されている。



尾張町境界の通り景観（西から東）



①下新町通りの景観



②尾張町通りの景観



③旧今町通りの景観



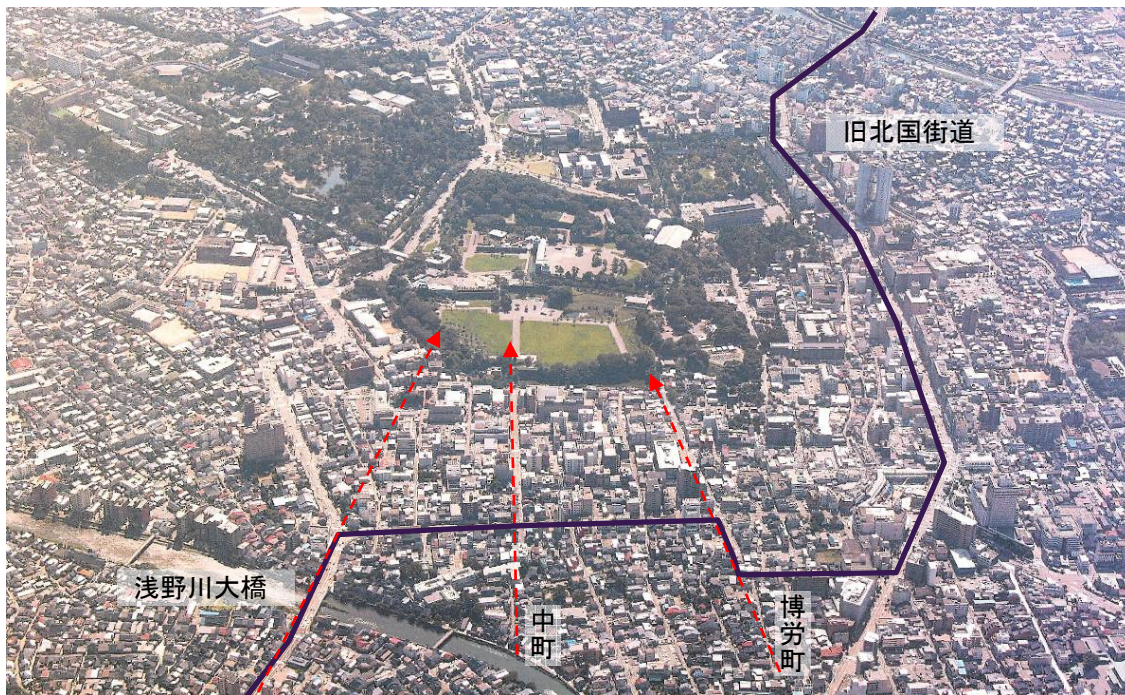
④旧殿町通りの景観



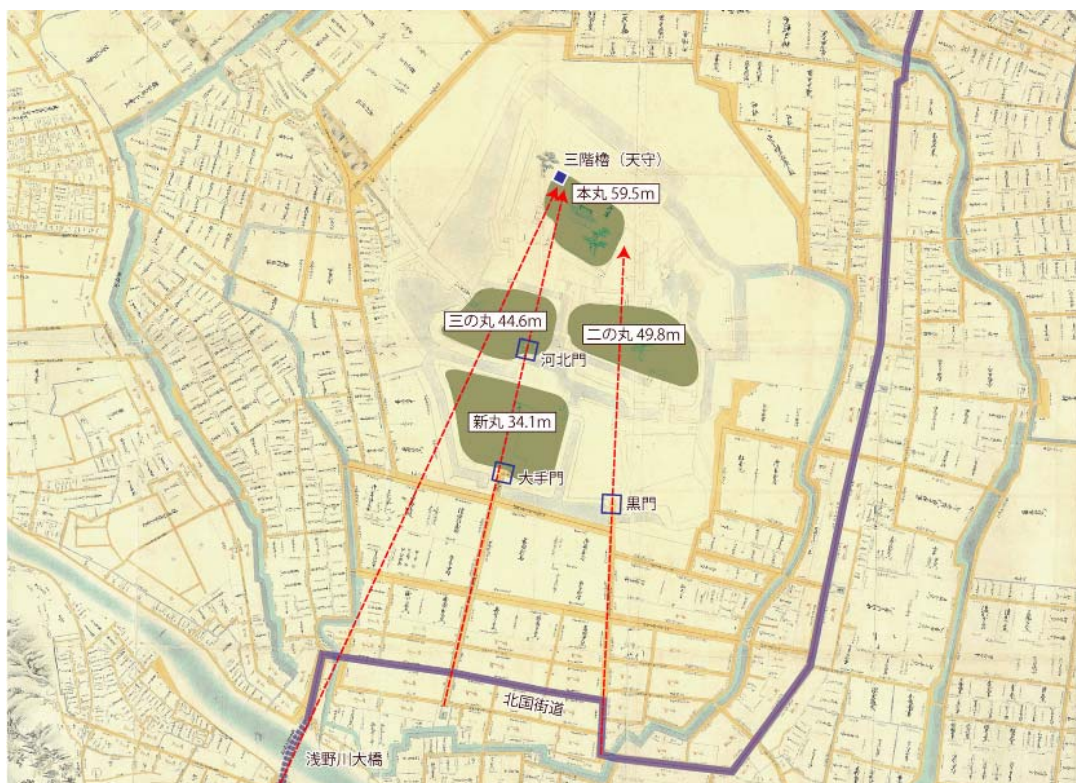
⑤大手堀通りの景観

※右の写真は左の写真のアイストップ（赤枠部分）を拡大したもの。

藩政期には、城下町の都市計画により、旧北国街道から城下への入口（浅野川大橋付近）や大手門に通じる中町通りから、金沢城の天守に相当する三階櫓が見えるようになっていた。また、黒門に通じる博労町通りからも一直線に本丸方面を見通すことができ、北から南方向を眺める見通し景観も城下町金沢の都市計画を示す重要な景観といえる。



現在の尾張町界隈の通り景観（北から南）



尾張町界隈の通り景観（北から南）※数字は標高
金沢図（寛文7年（1667）、石川県立図書館蔵）に加筆

現在、旧北国街道の城下入口から金沢城に向かう見通し景観は、電線や標識、高層建築物などによって遮られ、アイストップに金沢城の樹木や菱櫓の上部が僅かに見える程度である。

また、中町通りや博労町通りでは、高層建築物が見通し景観に圧迫感を与え、城下町の都市構造を体感できる見通し景観を阻害している状況にある。



浅野川大橋付近（旧北国街道の城下入口）



中町通り（大手門方向）



博労町通り（黒門方向）

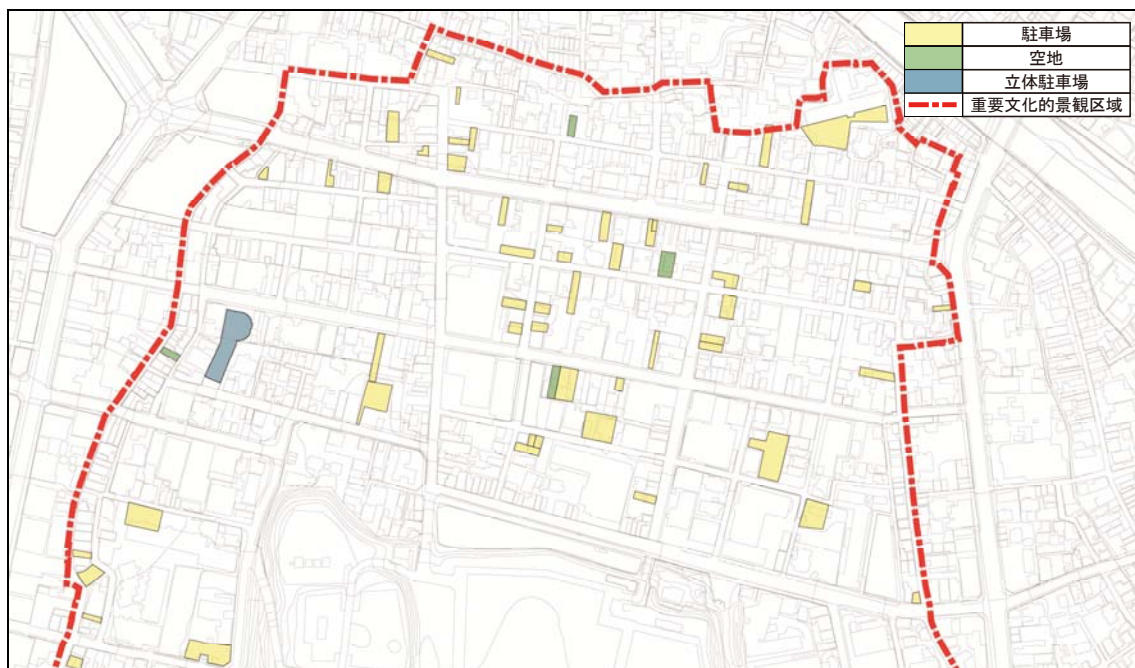
【課題】

- ・ 高層建築物により伝統的まちなみが損失するとともに、藩政期以来の都市構造を体感できる見通し景観が阻害されている。

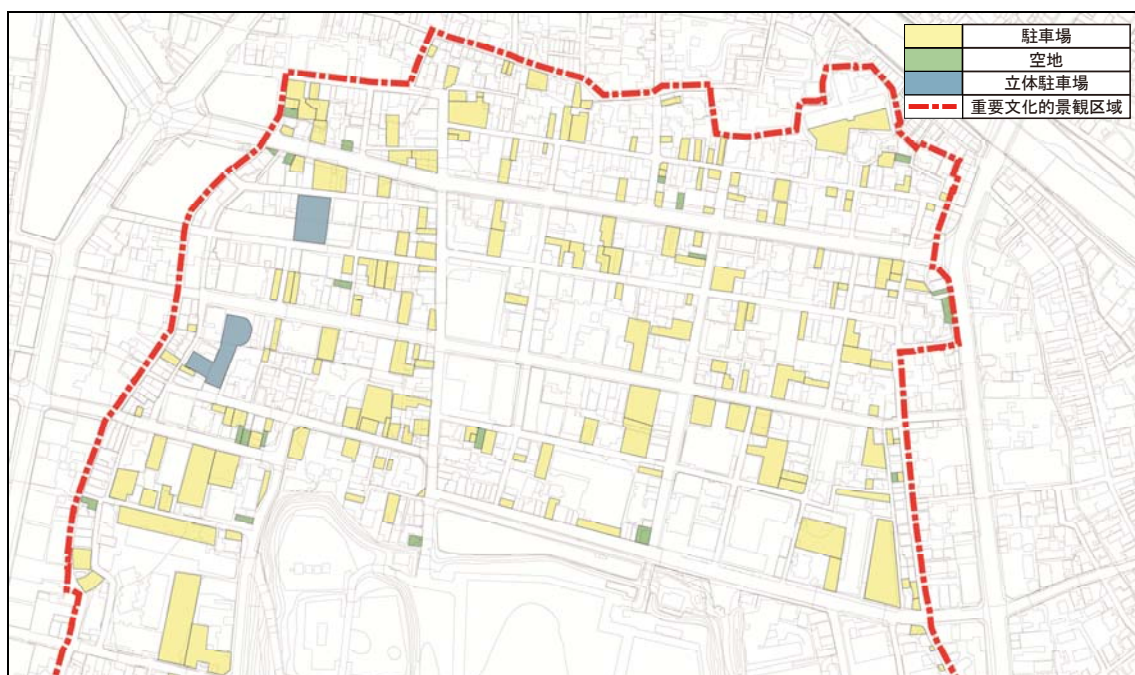
3-3 駐車場・空地の増加

歴史的建築物や伝統的な生業が多く残る尾張町界限では、駐車場が増加傾向にあり、そのほとんどは小規模な時間貸駐車場などの青空駐車場である。歴史的建築物の跡地などに立地する駐車場は、まちなみの連続性損失や空間の低密度化などを招いている。また、空地についても駐車場同様に増加傾向にある。

【昭和 53 年】



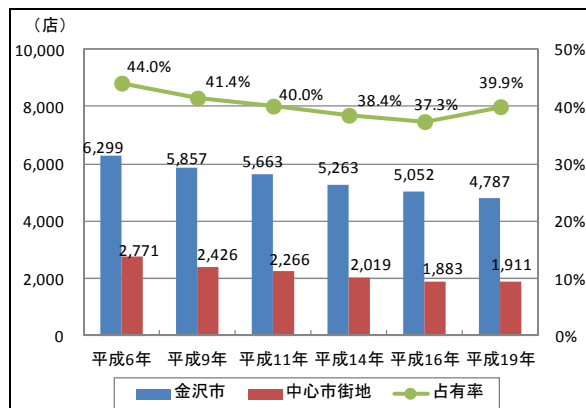
【平成 23 年】



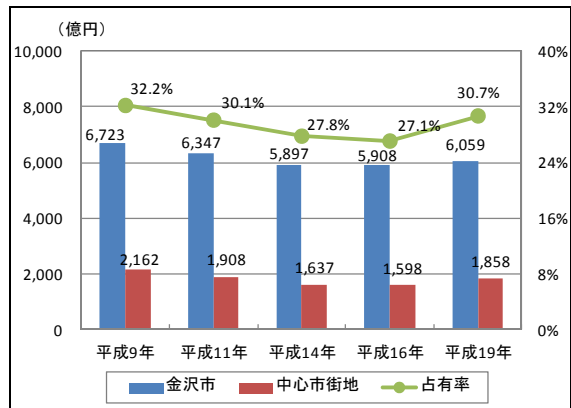
尾張町界限の駐車場・空地の変遷（既存資料、現地調査等を基に作成）

○小売商業

金沢市全体で小売商業店舗数が減少している。旧城下町区域（中心市街地）では、緩やかな減少傾向にあったが、平成19年に若干の増加に転じ、市全体に占める割合は店舗数で39.9%、年間商品販売額で30.7%となっている。



小売商業店舗数の推移



年間商品販売額の推移

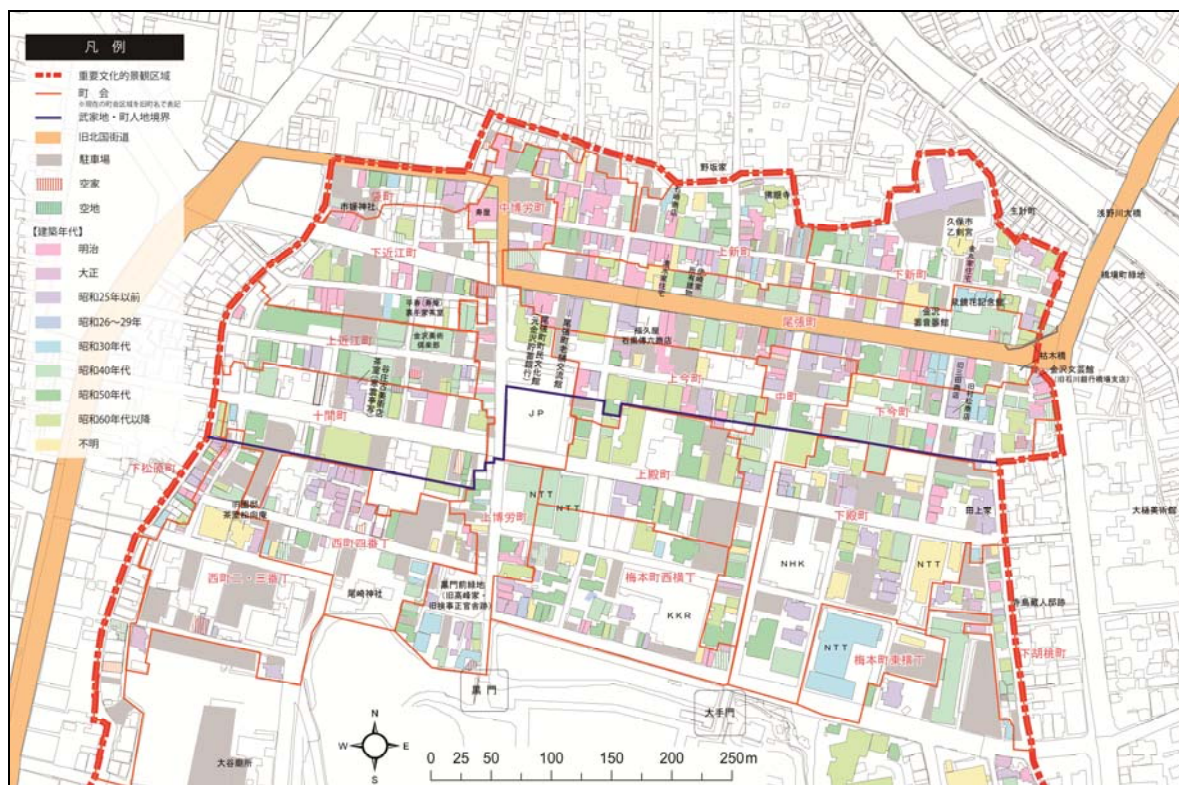
出典：金沢市中心市街地活性化基本計画（一部修正）

【課題】

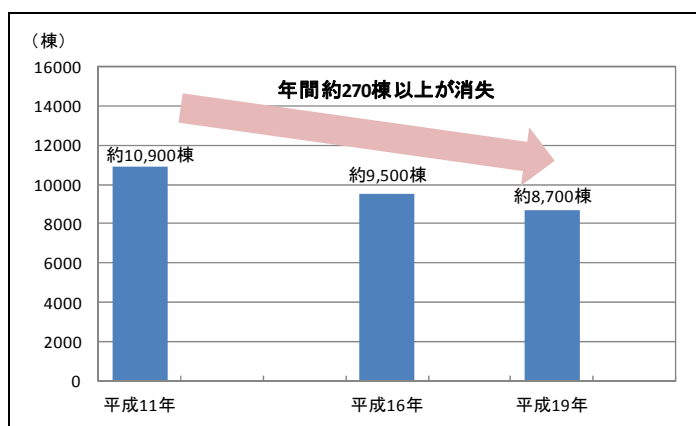
- ・ 駐車場や空地の増加により、伝統的まちなみの損失、地域の活力低下などにつながる。
- ・ また、商業店舗の減少により、地域の場所性を損失する恐れがある。

3-4 歴史的建築物の消失

旧城下町区域における歴史的建築物は、居住者や所有者の個人的な事情などにより取り壊される町家が多く、平成11年には約10,900棟であったが、平成16年には約9,500棟、さらに平成19年には約8,700棟まで減少し、年間約270棟以上が消失（固定資産税台帳による）している。特に、尾張町界隈では、明治、大正期の建築物が比較的多く現存している一方、昭和40年以降の建築物も増えてきており、歴史的建築物の建て替えが進んでいる。



尾張町界隈の建築年代（2009年時点）



歴史的建築物の消失状況

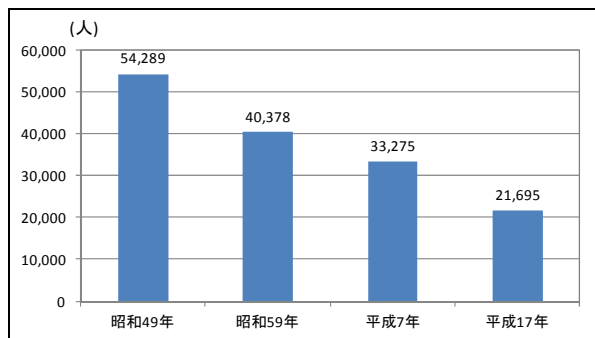
出典：金澤町家継承・利用活性化基本計画

【課題】

- ・歴史的建築物の減少により、伝統的まちなみの消失、伝統的な生活・風習・生業の変化などに影響を与えている。

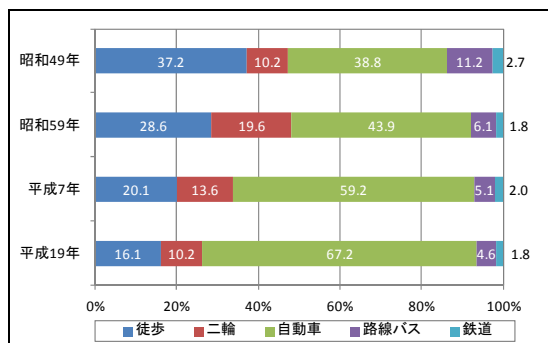
3-5 自動車利用の増加

金沢市では、近年、路線バス利用者の減少が顕著であり、平成17年には昭和49年の半数以下に利用者が減少している。また、金沢都市圏パーソントリップ調査によると、平成19年の自動車の分担率が67.2%に対して、公共交通（路線バスと鉄道）の分担率は6.4%と低く、自動車への依存が高い傾向にある。



路線バス年間利用者数（市内線）

出典：新金沢交通戦略



代表手段別分担率

出典：金沢都市圏パーソントリップ調査

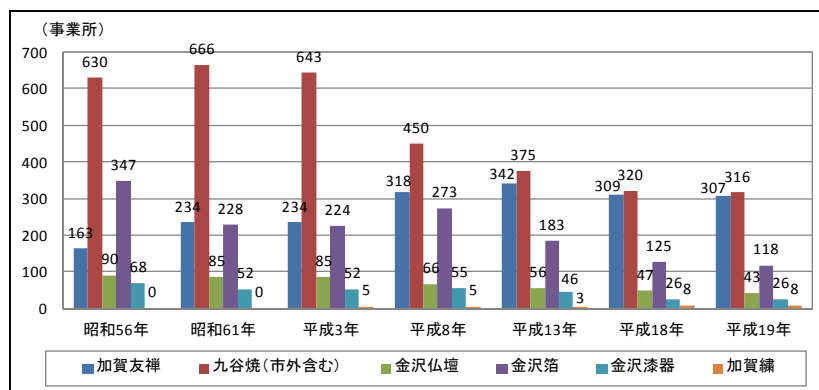
【課題】

- ・公共交通の利用が減少し、自動車の利用が増加することで、歩行者や自転車の安全な通行空間が失われつつある。

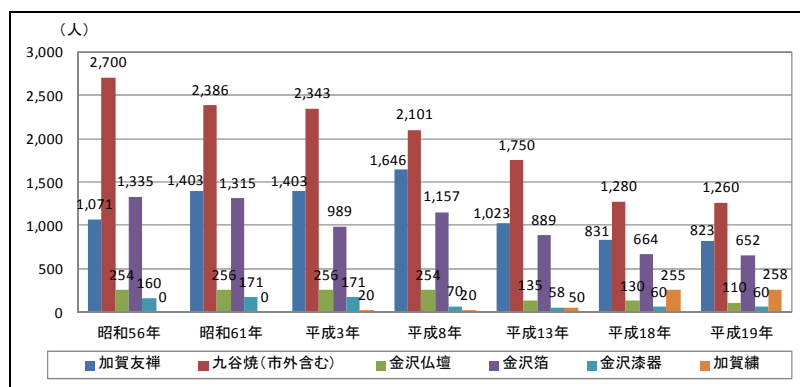
3-6 伝統産業や伝統的な行事・営みの減少

金沢の個性そのものといえる伝統的な職人文化は、生活様式の近代化による需要の減少、機械化による伝承技術の衰退、後継者の不足など、極めて厳しい状況にある。そうした中で、伝統工芸品産業の事業所数、従業者数ともに減少傾向にある。

また、金沢には藩政期以来の祭礼に伴うしめ縄やまん幕張り、獅子舞など、地域の伝統的な風習や行事、営みが数多くあったが、少子高齢化の進行や生活スタイルの変化などにより、それらも失われつつある。



伝統工芸品産業事業所数の推移



伝統工芸品産業従業者数の推移

出典：金沢市伝統工芸品産業アクションプラン



久保市乙剣宮神社の春秋祭礼のしめ縄

【課題】

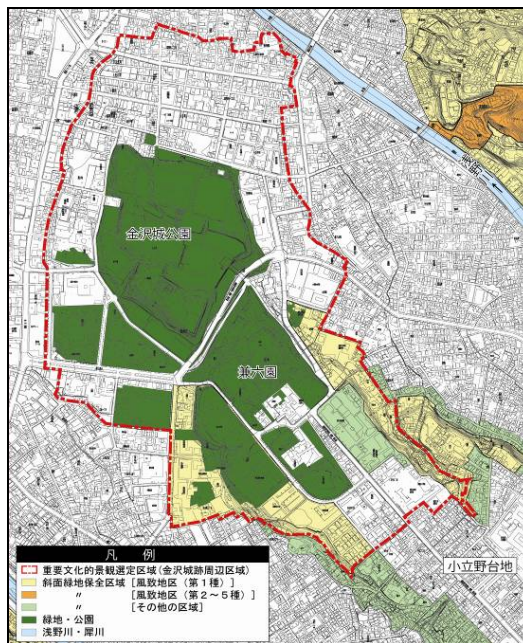
- ・ 後継者不足や少子高齢化、生活スタイルの変化により、伝統産業や伝統的な祭礼行事・営みが失われつつある。

3-7 町場の緑の減少

金沢城跡周辺区域では、金沢城公園や兼六園、中央公園、尾山神社等の寺社、旧武家庭園など、都心に緑地が集中しており、その周辺を斜面緑地保全条例に基づく斜面緑地保全区域に指定することで、金沢の個性的で緑豊かな景観の維持している。また、近代以降も武家住宅を模した近代和風住宅等において、松などの樹木が積極的に植えられ、都市部の貴重な緑になるとともに、樹木を雪から守る「雪吊り」は金沢らしい冬の文化的景観を生み出している。しかし、生活様式の変化により建築様式も多様化し、植栽を施さない建物も増えているほか、植栽地が駐車場化されるところもみられるなど、町場の緑が減少していくことが懸念される。



都市緑地の分布状況（航空写真）



斜面緑地保全区域の指定状況



松の分布状況

【課題】

- ・ 植栽地が駐車場化されることなどにより、町場の緑の減少が懸念される。

3-8 現状と課題のまとめ

重要文化的景観の保全・整備にあたっては、第2章に示した重要文化的景観としての価値に配慮しつつも、人口減少や少子高齢化などの社会的な課題だけでなく、歴史的建築物の消失や高層建築の建設などのように、開発需要のある都市ならではの課題にも配慮する必要がある。このことを踏まえ、重要文化的景観の保全・整備に向けた課題を整理する。

◎都市構造の継承

金沢には、金沢城跡や惣構跡、用水、街路網などのように、藩政期に計画された有形の要素が現在の都市構造にも継承されている。この都市構造は、独特の自然地形を基盤に形成されており、斜面緑地や町場の緑により潤いのある都市景観を形成している。また、金沢独特の地域コミュニティの単位である「町会」の形成にも影響を与えている。しかし、高層建築物や駐車場・空地の増加、自動車利用の増加による交通事情の変化などが影響し、今後、藩政期に由来する都市構造が失われていく可能性がある。このため、金沢における文化的景観の価値を表す都市構造を継承する方策が求められる。

◎生活・生業、界限性の継承

金沢は、近世城下町の整備とともに、美術工芸品を中心とした「ものづくり」が育成され、伝統産業が継承されてきた。現在でも市内には数多くの工芸作家や伝統産業に関する店舗があり、重要文化的景観の価値の一つである伝統産業は、金沢市民の生活や生業面に大きな影響を与えている。しかし、近年、少子高齢化による伝統工芸の後継者不足や機械化による伝承技術の衰退、生活様式の変化による需要の減少などにより、伝統産業が減退しつつある。また、生活スタイルの変化により、伝統的な祭礼行事・営みも失われつつあり、地区ごとの界限性を保つことが難しい状況にある。このため、金沢における文化的景観の価値を表す生活・生業、界限性を継承する方策が求められる。

◎都市建築の保存・活用

金沢の生活・生業を育む場である都市建築は、藩政期に由来する歴史性や場所性を継承しつつ築かれてきており、各時代の重層性を顕著に示す重要な要素である。しかし、都市の近代化により歴史的建築物が取り壊され、高層建築物や駐車場などが増加することで、金沢固有の都市景観が失われつつある。このため、金沢における文化的景観の価値を表す都市建築を保存・活用する方策が求められる。